

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490100288		
法人名	有限会社 アテネ		
事業所名	グループホームはなみずき		
所在地	大分市大字駕野1183番地1		
自己評価作成日	平成27年5月1日	評価結果市町村受理日	平成27年7月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true&PrefCd=44
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構		
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府壱番館 1F		
訪問調査日	平成27年5月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた自宅を離れ、はなみずきを選んでいただいた入居者さまやご家族の思いを、個々の誇りや尊厳を大事に社会の一員として地域に馴染んだ生活が送れるようお手伝いさせていただきます。職員はいつも実の父母、祖父母と一緒にとの思いで毎日を明るく、元気よく、ともに過ごしております。地域のみなさまやご家族には催し物や行事への参加のお誘いはもちろん、普段よりご近所づきあいのできる開かれた施設を心がけたいと日々努力しております。

事業所は5項目の理念をもとに、「自分の親だったら・・・」を念頭に利用者、家族の目線に立った介護を提供しています。日々の生活の中で利用者の思いを大切に、出来ることをひきだし、残存機能が低下しないよう出来る限りの自立を目指し取り組んでいます。また、地域密着型サービスの意義をふまえ、地域との良好な関係構築と、自治会、老人会、ボランティアの協力や中学生、高校生、大学生等の研修での来訪により、利用者との多くの関わりを持てるよう支援をしています。事業所主催の夏祭りには、子供達をはじめ、地域の多くの方の参加を得て、盛大に行なわれ、交流が広がっています。家族との関係性を大切にし、利用者の変化・状況等を今以上に伝え、意見・要望を聞くように心掛け、交流の機会を多く持つことを今後の取り組みとしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は常に利用者を人生の先輩と敬い、自身の父母、祖父母との思いとともに毎日を過ごしており、事あるごとに地域へも出かけるようしています。	理念は、誰でも何時でも目につき、ケアに活かせるようホール・事務室に掲示されています。管理者は職員一人ひとりが理念について、理解や認識度が十分であることを、会議等で確認するとともに、常にその必要性を感じ、日々のケアの実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣への散歩や買い物はもちろん、地域の行事には積極的に参加し、顔なじみとなるよう心がけています。また施設のイベントには声かけし、地域の方の参加も増え、施設に対する認識度も増したようにあります。	地域密着型事業所の機能を確実に果たし、地域社会の中で暮らしの継続を支援するために「理念」の中に掲げています。利用者にとって何が一番大切かを考慮する中で、老人会、夏祭りや中学生、高校生、大学生の実習や研修を受け入れ、外部交流の機会を持っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域の会合への出席にて認知症についてや、施設の役割などのお話をする機会を持ち理解や支援の輪を広げるよう努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、各方面から毎回多数の参加をいただき活発な協議もでき、施設の運営の参考とさせていただいております。地域との連携をとる上でも重要な位置づけとなっています。	運営推進会議は2ヶ月毎にホールで開催されています。運営状況やホーム環境、利用者の表情、生活状況を見て頂き、率直な意見を求め生活向上に努めるとともに、会議で提案された意見等は、ケアサービスに反映されています。また、行政と委員との橋渡しの役目も担い、雑談の中から提案を見い出しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者とは事あるごとに連携を図り、会議への参加や相談、助言をいただいております。また市開催の研修、勉強会には積極的な参加を心がけています。	運営推進会議に、市の担当職員、地域包括支援センターの職員が参加されており、その機会に事業所の現状報告や取り組みを伝えていきます。また、家族の生活相談で市の担当者にアドバイスを頂く等、市との連携を大切にしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はもちろん、言葉遣いにも留意し、精神的な苦痛も与えることの無いよう、常日頃より職員への意識づけはしております。玄関の施錠に関しては夜間の防犯上の理由にて施行しています。	マニュアル等により勉強会を実施し、職員全員で禁止行為の内容とその弊害の理解に努め、身体拘束及び虐待をしないケアの実践に取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	当施設において絶対に虐待はないを合言葉に職員同士、お互いに鏡となり言葉づかいや態度に気を付けています。また虐待につながるストレスや不満が溜まらないような職場環境づくりにも努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の方の必要に応じ、関係者との話し合いを持ち、成年後見制度の活用の有無などの検討をする支援はしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は施設長または管理者により、十分な説明後、不安や疑問に答え理解、納得された上、署名、捺印をいただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望にはその都度対応するようにし、職員にも開示し毎日の支援に反映できるようにしています。外部に対しては運営推進会議にて開示し、意見などを参考に運営に反映しています。	玄関に意見箱を設置したり、面会時に相談や意見が言える環境を提供しています。出された意見等は早急に対応し、サービスの質の確保、向上に反映させるよう努めています。	遠方で訪問しづらい家族や、言い出しにくい心情の表出に対する取り組みとして、毎月請求書と一緒に利用者の状況を知らせるとともに電話で近況報告し、家族の安心と信頼に繋げています。今後も利用者の変化・体調等について、充実した内容を伝えられるよう期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は、毎月の会議の中で発言の場を設け、普段に於いても意見があれば聞くように配慮しており、これら意見は毎月の幹部会議で検討し運営に反映しております。	各ユニットもしくは全体会議を毎月実施し、職員の意見、提案を収集しており、管理者、職員で精査しサービスに反映させています。就業環境においても、希望休や子育て中の勤務時間の優遇等、より働きやすい職場作りをしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務状況に負担のないよう、勤務時間や職場環境には配慮しています。また各自の努力や実績に応じ給与に反映し、向上心を持ち働けるよう条件の整備にも努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ベテランが新人に指導する体制づくりとともに、個々のスキルアップのための研修などの参加は積極的に受け入れ、より良いケアが展開できるように努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	より良い施設を目指すためにも他施設との交流を図り、相互のサービスの質の向上をさせていきたいと考えています。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接にて、本人の思いや状態の観察などで安心した環境を提供できるように情報収集し 入居後は不安のないよう、傾聴を心がけ信頼関係の構築に努めます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接などで、家族の思いや要望を聴き サービスへ反映させ、また、いつでも意見や要望を出しやすい環境や関係づくりに努めます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族えお含め話合った結果、「その時」必要なサービスであれば、既成のサービス外でも 同意の上対応に努めます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事業所の理念である入居者の方を人生の先輩と敬い、自分の父母、祖父母との思いで家族として接し毎日を協力しながら生活を共にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時には日頃の様子を伝え、変化や気になることがあればその都度連絡を取るようになっています。また、イベント等には積極的に参加していただけるよう声かけをしており、なるべく回数多く関わりが持てるように配慮しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や親せきの訪問があればその機会を大切にまたの訪問に繋げるように努めています。 外出、外泊も環境を整え希望に添えるように努めており、電話や手紙の支援も希望が叶えるよう配慮を心がけています。	馴染みの関係継続については、家族からの聞き取りや生活歴等で情報収集を行っています。外出、外泊は家族との連携で実現しています。帰宅願望のある利用者には自宅に同行したり、行きたい場所があれば、外出レクの計画に組み込んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は入居者各々の考えや趣味を尊重し、孤立しないように努めます。また、全員が楽しめるイベントやゲームの提供などで入居者が自然に関わりが持てる環境に努めます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時の情報提供はもちろん、その後の様子等を機会あるごとに伺うようになっています。また、直接の要請があれば相談や支援にも努めます。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で、常に傾聴と観察で各々の思いや希望を把握できるように努め、できる事にはなるべく本人の意向に添えるよう、関係者と相談の上、叶うように努めています。	利用開始時の聞き取りや、毎日の生活を通して思いや希望の把握に努めています。利用者の理解できるコミュニケーションの方法で説明を行うことを心掛け、職員はミーティングやケース記録に細かく記録し情報の共有を図っています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の暮らし方や生活環境の情報収集に努めなるべく、今までの生活スタイルに合わせた生活が出来るよう支援に努めます。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの暮らしぶりを参考に、毎日の心身の把握に努め、各々にあった運動や作業で残存機能の維持に努め、自立度の低下を防ぎます。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、職員全員参加のモニタリング会議で本人、家族の意向や職員の意見、気づきを反映した介護計画の作成に努めています。	利用者及び家族、関係者の意見やアイデアを反映し介護計画が作成されています。サービスの実施事項について記録を行い、毎月管理者が計画のズレがないかを確認するとともに変更の必要性を検討しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の様子は個別に記入され、別にバイタル、排泄食事状況が一目で分かるようにしており、勤務交代時には申し送りとともに気づきや工夫をノートに記し、職員全員が周知、共有でき介護計画の見直しや実践に活かしています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々に生じる状況に、柔軟な対応でその時にベストと考えられる支援に努めています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の公園やお店に出かけたり、祭りや運動会などの参加で地域の人と交流しお互い顔見知りとなり、地域の一員として溶け込み安心した生活が送れるよう支援に努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時には本人、家族の希望を伺いかかりつけ医を決めています。かかりつけ医には必要な情報提供や連携で受診や緊急時に速やかな対応が出来るように支援に努めています。	利用者・家族の意向に添う選択により、受診(家族同行を基本として相談援助)や協力医療機関(内科・歯科・総合診療科)による訪問診療も施されています。結果や現状の伝達により、職員間での共有と実践、家族との連携へと繋げています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師により個々の心身の状況は把握されており、職員の気づきや報告にも適切な指示、指導もされ、かかりつけ医との連携も適切に取れています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけの医療機関の関係者とは早期よりの連携に努め、情報交換や相談などで入退院の受け入れがスムーズに運ぶよう環境整備を整えます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化指針の説明をし、同意の上契約をしています。状況に応じその都度家族への確認はします。終末期が近づいた場合は、家族、主治医、看護師、職員で今後の方向性を話し合う会議を設け、統一された支援を職員全員でさせていただきます。	重度化における施設の取り組みにおいて、入所時より利用者・家族への説明・同意を得ています。医療連携の体制に基づき、マニュアルの整備と職員のチーム力を活かしながら、終末期の支援に繋げる中で、状況の変化に即した家族との協議・意思確認が行なわれています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時マニュアルは常に目にする場所に掲示しており、全職員へ定期的に看護師による指導もしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練の内、1回は夜間想定での訓練をしており、また毎日、防火設備、施設全体のチェック表で各フロア毎に点検しています。近隣の方にも施設を知ってもらい協力を得るため日頃より、積極的に声かけしています。	構造(2・3階)による災害時における危機感を認識しており、日々の点検(チェック表)による防災の徹底に努めています。人材の確保(消防団・近隣者)への協力体制の必要性を示唆しており、日常的な交流関係づくりも視野に、生活に努めています。	法人施設との総合避難訓練において、避難・対応の上達に努めています。夜間時における避難環境の把握、近隣者の協力(見守り)、職員の呼び出し訓練による迅速な対応など、防災対策への更なる気付きによる安全対策の強化に期待します。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの今までの生き方や環境に配慮し、常に人生の先輩として敬い、心をこめて接するようにしています。	声かけは名前に「さん」付けを基本としており、利用者の尊厳を大切に、「自分の親」としての所作を支持しています。利用者・家族の現状は、職員間で共有が図られており、秘密保持規定の表明・個人情報使用同意書の同意が図られています。	理念への意識に基づき、精神面に配慮した言葉かけにおいて、職員間での留意と日常の援助に留意しています。研修(外部・内部・他施設交流など)への取り組み方や内容の工夫を活かしたスキルの向上に、一層の期待が持たれます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を遠慮なく言えたり、職員が強要したり無理強いせずに自己決定できる環境の提供に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその日の体調や気分を考慮し、何事にも柔軟な対応で支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の更衣の時間や入浴日には、好きな衣類を選んでいただき、散髪、美容院へは行きつけがあれば希望に添えるように手配し、毎日の整容は声かけや介助にて支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べれない物や形態には栄養士や厨房に情報提供で個別対応し、月に数回、入居者と職員と一緒にやつ作りやランチパーティを開くなど、買い出しや料理作りを楽しんでいます。	外食産業による食事の提供において、給食委員会の開催により、食の期待感(季節の食材など)や食べ易さ、栄養バランスに着目した支援、嗜好の把握に努めています。手作りおやつ・ランチパーティーや、行事食・レク外食も行なわれています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせる形態、量を提供し、医師の指示のある方には応じた食事や水分の提供をしています。また、脱水などにも注意を払い、夜間の水分補給にも留意しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には個々にあった口腔ケアの支援をするとともに、口腔内に不具合が生じた時には本人、家族に相談の上、専門医受診を勧めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンやサインを職員間で共有し、なるべくトイレでの排泄を心がけ、移動、移乗動作で自立動作がスムーズにでき、快適な毎日が送れるよう支援に努めます。	日中のトイレ誘導・立位・排泄の自立を支援しており、排泄パターンの把握と職員の気づきによる援助に取り組んでいます。行動のサインを職員間で共有する中、個々の利用者に合わせた声かけ・誘導・支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養士による献立や食事の提供、看護師の運動指導、体調管理、また職員による定期的なトイレ誘導などでスムーズな排泄が出来るよう支援に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は個々の体調や希望に合わせ、柔軟にできるように努めています。当日入浴できなくても他のフロアでの入浴ができるように配慮しています。	利用者の習慣・個性・特質や状態の把握により、同性・二人介助に対処しており、安心感が抱ける声かけ・心地よい入浴援助に努めています。週3回を基本に、状況に応じた清潔保持への取り組み(法人の機能・リフト浴など)も行なわれています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の心身の状態に合わせ、散歩や運動、休息を取り入れ、寝具を干すなど気持ちよく安眠ができるよう環境にも留意し支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員の服薬状況が分かるように個別に内容がファイルされており、薬剤師からの情報も職員全員、周知できるようにしています。日々の服薬の中で症状の変化があれば、看護師のもと主治医との連携も取れています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりができる事を日々の生活のなかで、協力しながら役割分担し過ごしています。そんな中での好きな飲み物でお茶したり、趣味や散歩にと気分転換が出来るよう支援に努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃より、近隣への散歩や買い物は職員と一緒に出かけよう支援しており、四季折々の変化も感じられるよう、家族参加も働きかけドライブや花見など実施しています。また、帰宅支援も家族との話合いのもと出来るだけ、叶うように協力しています。	個々の利用者の思い(買い物・帰宅)への配慮、散歩や外気浴による気分転換が図られています。行事(ドライブレク・施設レク)や運動会(小学校・法人内)では、体調を考慮しながら、交流(地域間・家族)に努めるなど、可能な外出支援への取り組み、思いの尊重・実践への姿勢が伺えます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理でき、お金を所持している方には希望に応じ買い物支援などしており、出来ない方には家族との相談の上、希望に添えるよう支援に努めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば常に会話ができるよう配慮し、声を聞きたい聞かせたいなどの気持ちに添うようにしています。手紙に関しても代読や返事へのお手伝いをさせていただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分は清潔に保ち、季節の花や入居者の作品や思い出の写真を展示し、いつでもゆったりと過ごせるように配慮しています。	個々の尊重と集団との営みにおいて、利用者とのコミュニケーションを大切に、思いの把握と寄り添える支援に努める様子が伺えます。利用者との共同制作・ゲーム(風船バレー・ボーリング等)や、個の関わり(掃除・献立記入・洗濯たたみ等)による、和やかに過ごせる環境作りに取り組んでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでのテーブル席では入居者の相性を考慮し、配置を決めています。窓際のソファでは一人になったり、気の合う者同士が会話を楽しんだり、ゆったりと過ごせるように工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染の家具や身の回りの物で過ごせるようにしています。清潔に過ごせるように環境整備には本人と一緒に相談しながら、居心地のいい状態の居室を心がけています。	慣れ親しんだ物品の持ち込みの支援や、季節に応じた衣服の入れ替えが行なわれています。家族の意向を踏まえつつ、職員との交流・連携を大切に、利用者が居心地よく、安心・安全に過ごせる居室環境への取り組みの姿勢が伺えます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内ではなるべく自立での移動や移乗ができるように手すりの設置、障害物のない環境を提供し、職員は常に見守り重視で安全に留意し、個々の自立度に応じた対応を心がけています。		